

雜 錄

●我邦製鐵業の振興に就て

野呂景義氏談

我邦の製鐵業は戰時中鋼鐵の輸入杜絶のため急速なる發達を示したるが、休戰以來早晚來るべき輸入品の競争を慮り、鐵價の低落となり、今や斯業は前途に不安を懷くに至り、如何にして堅實なる發達を遂げしむべきか、之が前後策に關しては事業界各團體或は専門家に於ても屢次會合協議して夫々方策を講じつゝあるが、當面の方策としては製鐵業者の一大合同を行ふにあるが、這は其事業規模の大小によりて自ら利害の異なるものありて遽に實現を望まれ難き事情あるが如し、然らば更に他の方策を講ぜざる可らず、或は保護獎勵金の如き、或は關稅政策の如きも必ずしも不可なるにあらざるが、之を以て直ちに根本方策と稱するを得ず、又徒らに政府に依頼するが如きは堅實なる發達を期する所以にあらず、須らく事業家の自主的根策を確立せざる可らず。

製鐵所を民業に 製鐵業振興策に對する予の私見を以てせば先づ其根本を堅實ならしむる方策として、政府の製鐵所を民業に移すにあり、然れども之を普通の株式會社とするに於ては他日一般製鐵業者を壓迫するに至るやも測り難

きを以て、釜石、日本鋼管、日本製鋼所其他の現在民業製鐵會社に對して其事業狀態に應じて適當に株式を割當て、株主たらしめ、而して此の製鐵所を中心として國內製鐵業のシンデケートを組織することとせば、共に健全なる發達を期するを得、同時に外國品に對して十分競争し得るの實力を有するに至るべく、又原料鑛石の買入等に就ても利益尠からざるべし、原料鐵鑛に就ては元より深く憂ふるの要なしと信ず、内地に於ける之が產出少きも、朝鮮、支那等には豊富にして其供給を仰ぐことも至難にあらず、只問題とする處は石炭なるが、昨今の如く炭價昂騰し供給常に缺乏を告ぐるが如き有様にては、製鐵業を發達せしむる上に於て影響する處尠なからず。

炭坑國有と水電 今日石炭業者は全力を盡くして採掘に努め、供給の増進を圖りつゝありと稱し居れるも、其實成るべく炭價に變動を來さざるべく需給關係に手加減を加へつゝあるは推測に難からざる處なり、鐵は國家産業上缺く可らざるものなるも、石炭は更に其範圍廣くして工業上に影響する處甚大なるものあり、例へば鐵材は國內に生産せずとも、船舶、諸機械は外國より輸入して直ちに使用せらるべきが石炭を輸入に仰ぐが如きは到底堪へ得べきものにあらず、國內の石炭は埋藏量豊富ならずとするも、高島炭坑の如きは十年前既に命數の盡きたりと稱せられたるに拘らず、今日猶稼行しつゝあるに徴するも亦國內炭量は敢て

悲觀するに足らざるを知るを得べし、若し今後炭價低落の見込なしとせば政府は須らく炭坑の國有を斷行して需用者の爲に圖る處なかるべからず、敢て炭坑の全部國有とせずとも其幾部分を以てするも可なるべし、或は予の說を以て突飛なり、空想なりと爲すものあらんも、鐵道國有の如きも其當時に於ては殆んど空論視せられて實行を難んぜられたるに想到せば、炭坑國有も亦た斷じて行へば爲し能はざるの理あらんや、最近物價暴騰に際して物資無賃輸送を行ひたる如き、國有鐵道にして始めて之を實行し得べく、私設鐵道としては望むべからざるの事たり、故に石炭市價にして昂騰底止するなくんば、需要者の苦痛を救済し、國家産業の不利を防止して、其の發達を保護する爲には須らく炭坑國有を斷行すべきなり、獨り製鐵業のみならず一般工業に於ける、石炭供給難を救済する一策としては、大に水力電氣の利用を奨勵すべし、現在水力電氣の不足を訴へつゝあるも、我國は利用すべき水力到處に豊富なり、只事業の起らざるが爲なり、尤も電力の利用に就ても工業の種類に依りては一概に電力に據る能はざるものありて、製鐵業に於ても加熱を要するものは石炭を燃料とせざる可らず、故に例へば熔解より鋼塊を製出するに至る迄は石炭を用ゐ機械作業を爲すものには電力を用ゆることとせば、茲に幾何か石炭の節約を爲すを得る道理なり、而して我國電氣力の發展を阻害するものは、水力利用の權利賣買を目的とし

て、實際起業の意思なきものあるは、實に其の一原因なり。斯の如き者に對しては起業期間を経過すると同時に直に其權利の無効を勵行すべし、第二には水力起業に對する當局の許可遷延することにして、爲に事業の發展を阻害することと尠からず、此等は當局に對して其の急速に行はれんことを望む。

海外に發展せよ、製鐵業の持續及び發達を助成する當面の方策としては、上述の如く官營製鐵所を民業に移し之を中心として一大シンヂケートを組織し以て其の基礎を堅實ならしむるにあり、更に將來の發展策としては鐵礦及石炭の豊富なる支那に於て合辦事業に依る製鐵所を經營するにあり、斯くして内外相連絡せば其製品を東洋市場若くは米國西海岸地方にも販路を擴張すること困難にはあらざるべく、既に國內製鐵業の基礎堅實ならば一朝有事に際して外國より輸入なくとも優に自給自足するを得べきなり

●製鐵業の合同を計れ

今泉嘉一郎氏談

斯業不振の原因、我が製鐵業の現状より見て、今日是れに對して最も脅威を與へ、加之其の發達を阻害するものは蓋し歐米先進國の壓迫なりと云ふも不可はない。果して然らば我が製鐵業を成立發達せしむるを念とせんか、茲に其の防禦方法を講ぜねばならぬ事となるが、今日其の防禦方法として、何物が最も有力なるかと云へば一に國家の保護

二、に製鐵當業者の協力自營の外なしと云つても宜い、況んや我が日本の製鐵業を脅威せしものは、世人の周知する如く、從來獨逸のカルテルであつたものが、今日では米國のトラストが之に代つて益々壓迫の猛威を振はんとしつつあるのである。獨逸のカルテルと云ひ、米國のトラストと云ひ要するに向ふは合同力の巨勢を以て我が日本製鐵業を脅威し、若しくは壓迫せんとしてあるのである。之れに對し我が日本の製鐵業者は個々別々の力を以て對抗しつつあるのである。勝敗の數豫め逆睹するに難からざるは素より云ふを俟たざる所である。然らば此の場合我が製鐵當業者の之れに對抗する方法は彼の合同の勢力に對して、我亦た合同統一の力を以て當るの外なしと云はねばならぬ。次に政府の保護に就いては、種々の方法あるべく、又た數年來種々の方法あるべく、又た數年來種々の方法あるべく、又た數年來種々の具體案も研究されてある様であるが、要するに國家が一の事業を保護せんとする場合に於ては、第一に其保護すべき事業自體が、發達未だ幼稚にして、而も他の先進國との競争をせねばならぬ地位にある場合と、第二には其事業が假令何程發達したりとしても、其事業自體に我が國特有の缺陷がある場合其の缺陷を補充するを目的とするのでなければならぬ。我國は此の意味に於て其の保護政策の如何なる方法に出づべきか範例は世界の製鐵に少からず、亦た同時に其の保護關稅等に就いても、參考とすべきもの決して尠なからざるを以

て、必ずしも多く論ずる迄もなく、直ちに之れを實行し得る事と思ふ。

合同とは如何、以上は他力的の保護であるが、それに増して更により以上必要なるは各當事者間の自力的自覺である。是は何うしても協力一致に依る外はない。即ち官民製鐵所の合同統一である。此の合同と云ふ事に就いて、一寸説明して置きたい事があると云ふのは、此の合同に其の方法が種々ある事である。第一は佛國であるが、佛國では是をコントリアと云つて居る、吾人は之れを協同價格協定と譯して居るが、其の方法と云ふのは、單に各製作所が其の製品の價格を決定し、廉賣を避け、國家をして一定の高價製品を使用せしめ、製鐵業者各自の競争を避け、以て事業の安全を計るのである。然し此の方法は頗る實行困難なる方法で如何に表面上價格を決定若しくは協定しても、裏面に於ては鐵業者の各自の都合に依り、製品價格の割引乃至購買價格の割戻し等を爲すに依りて其の協定價格が動もすれば崩れかゝるもので、現に佛國に於ても實例に乏しからざるのみならず、各國共之れを試みて、孰れも實行困難に陥つた方法である。次は獨逸のカルテルである。之れは吾人は販賣資本合同と譯して居るが、今簡単に之れを説明すれば各製鐵所は、各自依然製鐵業は繼續するが、其の製品は總て或る一箇の組合に賣却して了つて即ち其の組合は各製鐵所に於ける製品全部を買收して之れを自己のものとし

其れを種類に依りて區別し、改めて組合によりて顧客に賣却し、而して得たる利益は、再び各生産者に向つて分配する即ち此の獨逸語のカルテルに於て始めて有效なる方法ならんも、我邦の如き後進國の採る可き方法としては少なからず考慮を費す必要がある。何となれば此の如き方法は獨逸の如き製鐵界の發達し、所謂生産過剰となり、生産者各自の競争困難なるのみならず、一方外國に向つて他國との競争に勝たんとする場合、自國の製品を廉賣せんとする際に於て行ふ可き方法で、其の結果は自國國民に對しては高價を強ふるといふ缺點があるからである。次に米國式と云ふものは如何なるものであるかと云ふに、是れ改めて云ふ迄もない例のトラストである。吾人は是れを經營全資本家統一と云つて居るが、是れに加盟した各製鐵所は、同所に各自其の獨立を失ひて新らしく大會社となり、其の大會社が總てを經營する事となるのである。實際の例に依れば各會社の幹部には別に變動なきも新たに中央に經營本部が出来其の命令に服從せねばならぬ事となるのである、此のトラストを以て一般良法となすべきである。

三、大理由とは、製鐵事業の基礎を確立せんが爲めには、其以前先づ以て原料即ち鐵、並に石炭を確保せざるべからざるは云ふを俟たざる所である。然し乍ら以上の目的を以てする場合、個々別々の力を以て是等の原料を占有し、且つ是れを開發するとなると、實際上勘からざる困難に遭遇

するのである。殊に外國に在る原料鑛山の開發等に至りては、個々別々の力を以て爲すの頗る難く、到底共同の力を以て之れに當るの外はないのである。是れ官民製鐵所合同統一の必要ある第一理由である。又た例へ假りに個々別々の力で相當の原料鑛山を占有し得たりとするも、それに依つて一般の製鐵業者が共同に利用し能はざらんか何等の效力なきばかりでなく、其等の原料鑛山埋藏量が相當の額或は相當以上の額を示すとするも徒らに個々の占有に一任せんか、全く活用 of 途無く、若しくは活用の範圍局限せられて、結局同一の結果を見るに至るのである。是れ官民製鐵所を統一合同、打つて一丸となす必要ある第二の理由である。尙例令ば製鐵業の主要原料、石炭の如きものにありては、現在の事實を以てすれば其の主なる炭坑は、一に有力なる少數鑛業家の爲めに占有せられ、他人が之れを利用せんとせんか、其場合には非常に高價なる使用料を支拂はねばならぬ。即ち需要者は供給者に對して、非常なる利益を提供して其の處要原料を買取らねばならぬのである。現に最近に於ては我が鑛業界に於ける此種の傾向益々甚しく、一般需要者の如きは極端なる禁止價格とも云ふ可き程の禁止價格を以て處要炭を購買しつゝあるのである。鐵にしてもその通りで、今日我が國有數の鐵鑛と稱せらるゝ釜石にしても、北海道にしても、此等の鐵鑛は悉く個人若しくは一會社の占有となつて居る關係上、此等の鑛山には各自實

に數千萬噸の埋藏量ありと稱せらるゝも、其の實占有以外
の者には全く利用の途なく、其の埋藏量畢竟死藏に外なら
ぬのである。此の如くんば、縱令此等原料鑛山の埋藏發見
に關する幾何の報告あるも、活用 of 途なき若しくは活用の
局限せられたる場合、國家自體に寸毫の利益を與へぬ事と
なるのは自明の理である。是れ官民製鐵所合同の必要ある
第三理由である云々。

●度量衡會議 度量衡及び工業品規格統一調査會は十
二月十七日午前十時より農商務省に於て開會

野呂工博、堤工博、長岡理博、澁澤工博、田中陸軍中將
松本主税局長、今泉工博、中島機關中將、手塚統計局長
崎川鑛山局長、井口工博、岡田海軍中將、原田内務技監
原軍需局長、大河内工博、加茂工博、筑紫陸軍中將、中
村理博、四條工務局長、杉浦鐵道院技監、岡本商務局長
寺野工博、佐野工博

の諸氏出席犬塚次官會長席に着き

一、度量衡統一實行の順序方法に關する件

一、計量單位に關する件

を議題とし寺野博士より特別委員會の經過並に結果の報告
あり現在我國には各種各様の度量衡ありて、種々なる不都
合の發生するあり、又計量單位に關しても馬力あり、氣壓
あり、單に馬力のみにて凡そ十五種ありて頗る複雑を極
め居りて是等に對し種々質問應答ありたる末

一、度量衡はメートル制に統一すること

二、計量單位はキロワットに一定すること

に決議し其實施は比較的簡易なる各官廳及び大工場に實施
漸次其他に及ぼさんとする方針を取ることとなり、尙農商
務省は右決議に基き篤と實行方法を研究したる上、省令の
必要あるものは省令を、勅令の形式を必要とするものは勅
令に依り、法律の改正を要するものは至急其準備を整へ急
速に之が實現を期することとなり、最後に工業品の規格統
一問題は次回に譲り午後三時散會せり

●船級聯盟成立 帝國海事協會と英國船級協會、米國

船舶協會並に伊國船舶登錄協會との聯盟に就ては先年來相
互に協定中の處舊臘協定成立したるを以て、帝國海事協會
に於ては十二月十一日帝國ホテルに遞信當局者造船業者並
に海運業者等を招待し湯河理事長より正式に聯盟成立の經
過及結果を發表したり聯盟規約の要項及海事協會の得たる
權利の重なるもの左の如し。

聯盟規約要項

甲、一の協會は各其國に於て他の三協會の代表者たる事

乙、聯盟協會は船舶の製造及檢査に關し全然同一の規則
を採用し造船技術の發達に努むる事。

丙、一の協會が船級を付したる船舶に對しては他の三協
會に於ても亦同一の船級を付する事。

丁、各協會は他の協會の登録したる船舶の定期損傷其他

一切の検査に従事する事。

戊、各協會所屬國以外の國の港に検査員を駐在せしむるは各協會の隨意たるべき事。

己、船級を取得するに要する検査料は總て英國船級協會の例に依る、但し一協會の船級を附したる上更に他の協會の船級を付せんとするときは極めて少額の料金を加算す。

庚、聯盟規約の有効期間は五ヶ年とす。

帝國海事協會の得たる權利

一、海軍協會はブリチツシユコーポレーション造船規程と同一の規定に依る船舶の構造強力を検定す可く而して彼れと對等の地位に立ちて聯盟を爲せるものに付我權威の彼れと對等たること勿論なるを以て船舶の新造改造修繕等に對する検査に於ては我當業者は從來の如く一々海外にまで交渉して其承認を受くるを要せず、即當協會より直接に承認を與ふるに依り此間に於ける日時と費用とを節約して事を迅速に進捗せしめ得るなり。

二、海事協會が付したる船級は各保險業者に於てブリチツシユ・コーポレーション又英國ロイドの付したる船級と全然同一のものとして處理すること勿論たるべし。

三、聯盟四協會は對等の條件に依りて船級の互認を爲すものなるに依り當協會の船級を受有する船舶は極めて少額の増料金を支拂ひブリチツシユ・コーポレーションは勿

論米伊兩協會の船級をも容易に受有し得べし。

四、聯盟四協會の検査員は彼我相融通するの方針なるを以て海事協會の船級を受有する船舶は世界到る處に於て臨時必要な検査を自由に受くることを得べし。

五、海事協會の検定したる乾舷標記は四協會聯盟の結果として英國政府之を承認することに内定せられあり隨つて米伊兩政府も亦之を承認せらる可きに付遠洋航路に配せらるゝ船舶は至大の便宜を得ることとなる可し。

六、從來我船舶はロイド其他外國船級協會の検査を受くる外我法律の命ずる所に從ひ政府の検査をも受くるの要ありしも、今後四協會聯盟業務の完全に實施せらるゝ曉には政府に於ても當協會の執行したる検査に對し相當の效力を認めらるゝものと信すべき理由あるを以て、果して此の期待にして實現せらるゝに於ては重複の検査を受くる煩瑣全然除去せらるゝことゝ成るべく乃ち是れより生ずる時日と費用をも當然省略し得らる可く其結果は延いて低廉ならしむることとなるべし、要するに從來内地に船級協會無かりし爲めに受け來りし船舶海運兩界の不利不便は總べて除去せらるゝと同時に今日迄失ひ來りし冗費を節約し得るに付結局兩界に多大の利益を齎らすべきを信じて疑はず。

以上は畢竟五協會聯盟に於て得る所の我利益の一斑を略叙したるに過ぎざるも而かも仔細に考索すれば是より生

する實際大小永遠の利便は殆んど測る可からざるものあるべし。

●支那製鐵業發展

支那製鐵業は戰時中頻に發展を續け上海の如きは小規模の製鐵工場續出し比較的大規模なる計畫も亦二三あり、即ち滬寧停車場附近に新設されたる合興廠は前の求新廠を引續けるものにて現に百三十人の職工を使役し居れるが、同工場の經營者にして江蘇議員たる莊某は目下上海の資本家と協力し更に大規模なる製鐵所を創立すべき計畫中なり、閩北顧家灣にある大效廠も先月開業を見たるものにて目下發電機、扇風器、精密機其他の小型機械類を製作し、昨年開業せる浦東の和舉廠は目下熔鐵爐二基を使用し木炭熔化の二部を設け電車會社の註文に應じ居れり、大規模の製鐵所中前農商總長張謇氏等の計畫せる大陸製鐵公司是最初例の鳳凰山鐵鑛に近接せる某鐵鑛の原鑛を使用する筈なりしも、其後違算の點ありしを發見し目下江西省方面に於て良鐵山を物色中なり、同公司の資本中多數の米國資金ありとの風説は確否不明なり、日本人と安徽督軍倪嗣冲氏との間に二千萬元の資金を以て日支合辦の製鐵所を創設すべき計畫は徐々たれども進行を續け居りて漢陽製鐵所ほどのものにはあらずとも揚子江下流にも早晚一製鐵所の出現を見るは確にて安徽省の鐵鑛に富めるは毫も湖北に劣らざる見込なりといふ。

●支那と製鐵

支那に於ける鐵山は我が八幡製鐵所、

戶畑東洋製鐵所に原鑛を供給する大冶桃沖の兩鐵山以外安徽省には銅官山を始め大冶の大鐵山に遜色なき二三を有し殊に銅官山の如きは揚子江に添ひ太冶より却て下流に於ける有利の地を占むるものなるが、斯くの如く支那に於ける鐵鑛區は非常に豊富なるもの少からざるに反し、石炭鑛區に就ては三井、三菱等は早くより調査に着手したるが、今日に至るも更に有望なるものを發見せず、漢陽製鐵の唯一の炭坑たる萍鄉の如きは目下南北支那の爭鬭中心に當り動もすれば南方より脅威せられ出炭捗々しからずして同製鐵所は爲に困難を呈せりと云ふ、斯くの如く揚子江沿岸に於ては製鐵用石炭の缺乏は勿論動もすれば焚火用の劣等炭も不足を告ぐる状態にあれば噂の如く、近時支那實業家が豊富なる鑛山より原鑛の儘輸出せず之を製鐵し以て支那をして東洋に於ける一大鐵の供給國たらしめんとするの計畫は至難の事業なりと云ふべし尤も鐵道を敷設し奥地の石炭を輸送するとせば別問題ならんも斯の如きは財政困難なる支那の現状に於ては容易に望み得べからざる所なり、されば支那の製鐵業計畫は永久の配當に依りて確實の利益を見ると云ふ堅實の計畫にあらずして單に會社を創立し利益だに得ば可なりと云ふ底のものにはあらずやと思惟せらる、而して歐洲戰爭中に我國が揚子江沿岸一帯に扶殖せし勢力に就ては英國人の大に嫉視する所にして今後支那に於ける鑛山利權は爭奪の激烈なるを免れざる所なるべし、尙山東省

金嶺鎮鐵鑛は既に八幡製鐵所に輸送されつゝあるが同鐵山は一時悲觀されし事なるも採掘開始後今日の狀態は最も有望なるものゝ如し、米國は此點に關し最近も資金の提供を申入れて米支合辦の下に一大製鐵廠の計畫を企劃する等の風説あれ共こは我國を脅かさんとする一種の流言なるらしく只將來日英米の競争は免れざる所なる可し。

●鐵の世界饑饉

製鐵界の強敵獨逸去り、新來の競争者米國未だ振はず、佛國はローレンの恢復後鐵產地を増したりと雖も、尙收穫には數年を要すべく、日本、白耳義露西亞にして問題にならずとせば、世界の鐵王は矢張り英なりと言はざるべからず。戰前に於ける國際的製鐵額は一年平均千八百萬噸にして、獨逸其三分の一を稼ぎ、英國は三分の一に足らざる有様なりき。戰時中需要激増せるのみならず、戰後に於ける破壊の恢復に要する世界の鋼鐵額は船舶、鐵道、橋梁、建築物のみにても計畫に絶すと稱せらる。此時に當り英國の製鐵額は一九一四年以來五〇%の増加を見勞働爭議にして解決せば其倍額に達する事困難ならずとは英國當業者の自負する所なり。然れども英國の當業者は米國の製鐵能力を餘りに輕視し居れるが如し、現に二十年來の増加率を比較すれば、英國は到底米國の敵にあらず、豊富なる炭坑あり、鐵坑あり勞銀の點に於て英國に一籌を輸するも、事業家の進取的なる、運賃の低廉なる、共に米國製鐵界の強味を語るものなり。米國の鐵貿易は昨

年末に於て其絶頂に達したるも、未だ戰前に於ける獨逸の噸數を凌駕する能はず、米國の富有を以てして尙此狀態に止まれるは、主として勞銀の激増に基けるを注意すべし。戰前に於ける鐵一噸の生産費は十二弗に過ぎざりしが、昨年末には一躍三十二弗半を唱へ、今や四十一弗に達せんとす大戰亂は製鐵界に於ける獨、英、米の順位に多少の動搖を來さしめたるも、未だ米國の大を國際的に承認せしむるに至らず、米國の勞銀昂騰は世界的に鐵の飢饉を甚だしからしむるの結果を致せり。世界の製鐵界より見れば、獨逸よりローレンを分離したることを以て不幸とすべし。

●内外製鐵業苦境

英國に於ける製鐵業は近時國內輸送能力の激減し居れるため、原鑛の手當困難なると石炭坑夫の罷業以來燃料の不足甚しきと勞働問題の影響を受けて生産能率減少し居れると、原價高の製品も國內產業界不安の爲、消化力なきと、製品は市價低落し居れる爲、採算不引合なる等の原因にて各社とも漸次操業短縮の方針を執り、甚だしきに至りてはドルマンロング會社の如き有力會社にて操業を中止するに至り、二三流會社にて一時休業の狀態にあるもの續出しつゝあり、英國の如き製鐵、鐵工業を重要な産業となし居れる工業國が右の狀態にあるに徴しても如何に改造過渡期にある產業界が混亂の狀態にあるかを知るに足る、獨逸にても製鐵業はアルサス、ローレンを佛國の手中に收められたる爲、原鑛、燃料の不足甚だし

く搗て加へて製鐵工業は勞力の不足と物價高による採算原價高と工場秩序が充分に復活し居らざる等にて依然操業休止の姿にあり現に操業中の工場も半休の状態にて到底國內の所要にも應ずる事能はざれば獨逸工業の復活前途尙遼遠と謂ふべきなり、白耳義も國內の鐵鑛、炭礦は悉く獨軍の魔手に據りて廢滅の狀にあれば早急に十分の恢復をなす望みなく、其他大陸諸國は燃料材の沸底と、勞働問題の紛糾とにより形勢全く混亂を呈してゐる、是れを米國に見るも殆ど同様の姿にありて石炭難、輸送難、勞銀高等何れも勞働問題の影響を受けざるはなく、各種製鐵會社は非常の苦境にある、翻へつて本邦の製鐵事業を瞥見するに戰爭以來工業の獨立、鐵自給の輿論喧しく所在の大小製鐵會社の出現を見たるも各製鐵會社とも原鑛運賃、石炭、勞銀の異常なる騰貴とにより價格に於て外國に對抗し得られざるのみならず、實に於ても到底匹敵し得ざる窮況に陥り現在の銑鐵相場一噸百三四十圓にては五圓乃至十圓方採算費を切込む向あり、比較的優良なる會社にても到底機械の償却等をなし得ざる悲境にあるを以て現状を推移せんか自滅の外なかるべく、海外の製鐵工業の窮況は過渡期にある一時的變調なるも本邦の現状は永續的性質を帶べるものなれば輕々に看過すべからざるものがある即ち國防の點より見るも工業の振興より見るも其の根本たる製鐵事業が今日の狀態にありては寔に寒心に堪へない。

●困難なる鐵材自給 戰前に於て本邦鐵材の供給は大部分之れを英、獨、米の各國に仰ぎたる爲め従つて製造事業は殆ど存立の餘地なく日露戰爭後政府に於ても鐵材自給の方法を立て一方に於て八幡製鐵所に於て鐵材供給力の増加を計ると共に他方獎勵法を設けて民間事業の獎勵に努めたる爲め、開戰前の大正三年に於て銑鐵三十萬噸の生産額を見たるも、尙需要額五十萬噸に對し漸く六割を供給し得たるに過ぎず、然るに開戰後獨逸の供給杜絶に次で英米の鐵材輸出禁止に因る鐵價暴騰に刺戟されて民間製鐵事業の勃興を促し、大正六年には一躍五十萬噸の銑鐵を生産し六割の増加を示せり、大正七年には更に増進し確實なる數字を得難きも約七十萬噸を戰前に比して約十三割の増産を豫想されつゝあり、然るに英米鐵材の解禁と内地需要減退に因る鐵價暴落の打撃をうけ開戰後の新設會社にして採算不引合の爲めに廢業又は休業せるもの少からず、昨今引續き事業を繼續せるものは釜石、兼二浦、輪西其他の一部に過ぎざる窮境にあり、之れが直接の原因は前記の如く海外輸入品の殺到と内地需要減退による供給過剰にありと雖も而も之れを世界的に見るときは却て戰前に比して供給力の減少を示せり、戰前の一九一二年と一九一六年度の米、獨、英佛四大鐵産國に於ける産額を見るに(單位千噸)

一九一三年

一九一六年

米

獨

三一、四六一

四〇、〇六五

獨逸	一九、二五一	一三、一九〇
英國	一〇、四八一	五、三一
佛國	九、一九一	五、二五〇

右表に示すが如く米國が約三割方の増加を示せる外各國共著しき減産を示せり、其後の産額に就ては確實なる統計なきも戦局の粉糾につれて一層の減少を來せる事は事實なるが如し、されば本邦鐵界の打撃は單に表面より見るときは一時的現象に過ぎざるが如しと雖も之れが根本に立ち入りて觀察するときは這是結局彼我生産費の問題に歸せざるべからず、今最近の調査に係る日英獨米の銑鐵生産費比較を擧ぐれば左の如し(單位圓)

	戰前	現在
日本	二六、〇〇	一〇、〇〇
英國	二四、〇〇	六、〇〇
獨逸	二四、〇〇	一
米國	二二、〇〇	七、〇〇

右の統計によれば戦前に於ける生産費は我國最も高率なりと雖も、最も低廉なる米國との間に僅かに四圓の差額を示せるに過ぎず、然るに現在に於ては最低廉なる英國との間に約五十圓の差を示し、昨今英國銑鐵が百二十圓(運賃加算)見當にて本邦に輸入され得るに拘らず、本邦品は百四十圓にて尙製造家の不引合なるに見るときは今後到底生産費低廉なる英米品に對して競争は不能なるべく、若し其儘に推移するに於ては折角時局の影響を受けて發達の機運に向ひつゝありし本邦製鐵事業は何等かの保護を加ふるに非

ざれば戦前狀態に逆轉の外なかるべし。

●製鐵事業經營難

梅野實氏談

余は過般業務の關係上鞍山站及び本溪湖の製鐵所をも視察したが製鐵業には各所共にその經營に苦心してゐる、三菱兼二浦製鐵所の如きは兎に角に一切の設備を了したる故残るは營業の問題のみであるが、今尙ほ設備の途中にある他の製鐵所には苦心の程度も一段と甚だしい譯である、製鐵所の苦心する所は如何にして鐵價の回復を策せんかよりは如何にして生産費の減額を計らんかにある、今假りに銑鐵一噸を得んとせばコークス一噸三四分を要する、そこでコークス一噸を四十圓とし燃料約五十二三圓を要する計算となる、更に鑛石二噸分の費用はざつと見積りて三十圓、其の外に石炭の四五圓、總計八十五六圓の材料費を要する、此の外に作業費の十五圓を加算し、結局銑鐵一噸の費用は約百圓内外を要する、尤も非常に天恵に富んだ場所即ち製鐵用石炭の採掘し得る地方でも八九十圓は要する、況や天恵に薄い割の悪い場所では百二十圓位を要する、然るに亞米利加の銑鐵一噸は日本に引きて運賃共約百十圓より百二十圓である故目下の所では先づ内地製品に比しとんとんで一杯の有様である。我國でも釜石八幡等の製鐵所は戦時中に利益を收めたが其他の製鐵所中遅れて投資せる者は今後豫期の収益を得るはなか／＼困難である、鐵價は目下の所回復は望み難い、内地では生産過剩の姿がないでも

ないが亞米利加が競争の態度に出でない限り先づ現状維持であらう、要するに製銑鐵材料費の主要分は石炭である故本溪湖製鐵の如きは燃料關係上有利である。次に製鋼は依然として外國品の輸入多く亞米利加の如きは、所謂大量生産を主として大仕掛けに製造し價格も我國製品に比較し安價にて一噸に付三四十圓の大値開きあるので結局採算上外國製品を使用する方が有利な場合を生ずる、是等の關係上例の製鐵保護の問題を生ずる譯である、無論政府としても之を等閑にして居るではあるまいが、勞働問題食糧問題の如きより一層緊切なる問題の爲め暫く聲を潜めて居る、要するに大口需要なく従つて大量生産なき我國製鐵業の缺點である。

●鐵自給自足の曙光

高田直之助談

鐵の自給自足が完全に出来ねば其國家は完全に獨立してゐると言ふ事は出来ぬとは今日何れに於ても論ぜらるゝところ、日本も今日のやうに支那から高價な原鐵を購入して漸く製鐵事業を經營してゐるやうな不定な状態を續けていつたなら若し支那から鐵礦の購入が出来ぬやうな場合が生じたらどうか、日支親善に努めていつたなら此不安は無いと言ふ者もあるが、現に支那は南北に分れて紛争してゐる況や國際間の問題であるから之を以て意を安んじてゐるのは大なる謬見と言はねばならぬ素より内地に多量の鐵礦が有るとしても其の壽命を保たせる爲めに一塊でも餘計

外國から鐵石を輸入するといふ事は宜しいが、之に絶對的の信賴をするのは國家を累卵の危きに置くやうなものである、然らば日本の製鐵業は如何に進んだらいいか、先づ鐵礦に就て考へると輕卒な斷定を下すことが出来ぬが、多數専門家の調査に依ると鐵礦輸入政策が唱へられたのであるが、砂鐵礦區ならば随分豊富なものがある、中國邊は最早晚期であると言ふことだが東北地方の岩手、秋田、青森縣下などには随分良質な砂鐵礦區が存在してゐるといふことは岸一太博士の發見に依つても實證されてゐるが、余も又岩手縣下に於て其有望なるものを發見した、又仙臺礦務署などは六年以前から之を調査をして必ず有望なりとの見込を附けてゐたとのことである、唯今日迄は砂鐵礦からでは優良なる鋼鐵を製出する事が出来ぬ、大仕掛けな仕事として經營するのに不適當であるとの理由で之は中國邊の小製鐵業者が指を染めた位のもので、大事業家からは殆ど問題とされなかつたのであるが、之が大なる謬見であるといふことを斷言し得るの機會がいよいよ近づき來つたのである、今岩手縣下の砂鐵に依つて研究を進めてゐるが、磷及硫黃の含有量の少い優良砂鐵からなれば必ず優良な鋼鐵が得られるといふことに技術者が自信を得て來たのである、之には陸軍海軍も大分心を動かしてゐるが此研究を進めて行つたならば日本の製鐵事業の將來に横はつてゐる不安は一掃される譯である、即ち此研究は國家的に重大なものである。

つて國家としても大に獎勵して之が完成を期せねばなるまい、ヤレ米國の鐵が輸出禁止になつたと言つては國內大騒ぎをやり、支那が不安だからと言つては値段の高い原鑛を無理に長期契約して製鐵事業は引合はぬと言つて悲觀する斯る有様で製鐵事業が健全なる進歩發達を期し得られやうか、然るに茲に砂鐵から優良な鋼鐵が得られるとなつたらば我製鐵事業の一大革命で之を新紀元として即ち自給自足が完成されるのである、砂鐵製鍊に必要な木炭を製造するには東北には豊富な山林がある、余は此意味に於て東北地方を大製鐵業地として發展させたいと考へてゐるのである。

●各國鐵材の需給狀態 戰前に於ける世界三大鐵產國たる英米獨中獨逸は開戰後生産上に一大蹉躓を來たし殊に戰後主產地たるアルサス、ローレン二州を失ひたる爲め戰前狀態に復舊する事は到底困難なるべく、英國は殆ど生産力を恢復し、米國は戰爭の影響を受けて却つて生産力を増大せるも而も大體より見るときは是等三國の產鐵率は戰前に比して著るしく減退せるに加へて其他支那、印度、佛國等の生産力一齊に減少を示せり、然るに一方戰時中及び戰後を通じて鐵材需用額は非常の増加を來せるを以て世界的大勢より見るときは今後益供給不足を免れ難き趨勢にあり今最近に於ける各國の鐵材需給關係を見るに、獨、佛、白の大陸諸國に於ては石炭及び素材の缺乏最も甚だしく且つ直

接交戰國なりしが爲に工場設備の復舊捗々しからず従つて國內需要をさへ充し能はざるを以て、輸出餘力は到底今年中には望み難く、英國は最近銑鐵一部の解禁を行へるも事實上未だ輸出を見るに至らず、目下上半期積百三十圓を唱へ棒、板、鋳力等凡て五六月以後に非ざれば積出不可能の狀態にあり、米國に於ては一流會社は期限付の新規注文を引受けず、ユーエス棒鐵(本年自由積出)にて二百圓見當銑鐵百三十圓以上を唱へ居れり其他東洋產地を見るに支那、印度供給不足を訴へ、漢陽鐵は銀四十五弗(邦貨百五十圓)タ、二百圓以上を唱へ居れり然るに本邦鐵材界は休戰後の思惑輸入品の在荷停滯を訴へ居れるに反して造船其他の需用減退せる爲め今夏來兎角沈靜を脱し能はざりしが、右の如き世界的大勢に促されて最近漸く活氣を呈し來れるを以て在荷の消化と共に前途活況を豫想されつゝあり。

●製鐵保護諮問

製鐵業保護問題が當業者の請願に依つて昨年議會の問題となつた當時山本農相は「現今の製鐵業は玉石混淆であつて保護の標準が立たない」と反對し當業者の運動は失敗に歸したが、近頃又もや保護問題の再燃し來らんとするに先立ち、農商務當局は適當の成案を得んものと、此程より次の如き三項の諮問を發して民間當事者の意見を徵してをる。

- 一、鐵鑛の供給を確保する方策如何
- 二、原鐵を海外に仰ぐとすれば滿洲邦人の經營に係る製

鐵業との圓滿なる連絡保持の必要がある、其施設如何
四、鐵鋼材關稅率の改正程度

果して成案を得れば當局は追加豫算の形式を以て今議會に補助案を提出の決心なるやにも傳へられてゐるが右の諮問事項が多年の懸案である所の八幡製鐵所問題に觸れてゐないのに對し民間に於ては多大の不平不滿を感じてゐるらしい、而して右三諮問に對する當業者の意嚮は大體次の如し
一、原鐵の原產地は朝鮮で利原、价川、内地で釜石、俱智安赤谷、滿洲で鞍山站等であるが、大部分を支那の原鐵に俟たざる可からざるは明瞭である、政府は其の點に考慮して從來鐵鑛輸入の障害を爲した特准鐵鑛暫行法第五條六條の改正を支那政府と交渉され度い、即ち五條には鐵鑛は支那政府之を買収す、六條には鐵鑛の賣買契約には農商部の許可を要すと規定されてある。
二、鞍山站の銑鐵は内地に輸入する事を制限又は禁止すること。
三、輸入稅引上の程度は固より種種議論あらんも最低四倍に引上げ度い、四倍とすれば次の如くなるが、是にても輸入品と今後價格の點の競争は困難である。

	現行率(一噸)	引上率(一噸)
銑鐵	一、四一	五、六四
棒鐵	一〇、一六	四〇、六四
板鐵	一〇、一六	四〇、六四

併し右の三點を實施したれば迎到底製鐵業保護の目的は達

し難い即ち(一)八幡製鐵所の拂下又は製品種類の制限(二)相當の補給金下附(三)製鐵業の合同獎勵(四)銑鐵製造のみの會社は鋼材軌條等の生産設備を爲すこと(五)炭礦の所有(六)運搬用船舶の所有等を是非共實行しなければならぬ、殊に補給は事業の基礎強固なるものに對し銑鐵一噸に七、八圓、條鋼六十圓、板類九十五、六圓の程度は相當の點であつて、右の補給程度の基礎を明かにするため當事者の調査した英米の輸入値段と吾が生産費平均額を對照すると即ち左の如し。

	輸入値段	生産費
銑鐵	英國 一一七	日本 一二五
條鋼	二三五	一九〇
板鋼	二五五	二九六

●製鐵保護方針

臨時財政經濟調查會に於ける鐵業振興方策(三號案)造船業獎勵根本策(四號議案)の兩委員會は昨年十一月より十二月に亘り數次開會協議の結果、之が全部の調査方を一括して、小委員會に一任し爾後小委員會に於て夫々調査の歩を進めたり、某委員の談を聽くに、小委員會の意嚮は一、本邦製鐵業者を合同し其統一を圖る事二、一に據り三菱、東洋製鐵等の銑鐵會社日本鋼管の如き管鐵專門會社、石川島の如き機械專門會社の合同の結果、綜合的作業方法に據らしむる事と爲すを根本策とし、差當り本邦製鐵業の保護上緊急方法として、外國品の輸入を除く施

設を最善と爲すにあり。即ち米國鐵橫濱一噸百圓に對し本邦製品は噸當り百二十圓なれば、廿圓の保護を與ふるに非ざれば、之を防止する能はず、而も一箇年の輸入額約廿五萬噸以上に對し、噸當り二十圓の保護を與ふる事は、到底政府の許さざる所なれば、現在一圓卅八錢の關稅を、一躍十五圓に上進せしめ、殘餘の五圓を政府より本邦品に對し補助せしめんとするにあり。仍て合計廿圓の保護を以て、輸入品と本邦品の價格を統一し、本邦品を振興せしむるの施設を應急策として、新春早々の委員會に附議し、右決定次第今期議會に之が關稅改正方を提出せん意氣組なりと云へり、尙造船業者は安價なる鐵材を得ん事を望める關係上、成るべく關稅を薄くし、補助金の厚さを希望せる模様なるも、委員會の決議は關稅十五圓補助金五圓に略々決定せる様子にて、政府當局も亦既に議案に許可の内意を漏らし居れば、結局前記の方針にて議會の協賛を求むるに至るべし。

●鐵鋼自給協議

日本工業俱樂部にては一月九日正午より丸の内鐵道協會に於て鐵鋼調查委員會を開き郷中島兩男を始め白石、今泉、香村、一色、三宅川の各委員出席前年よりの繼續問題たる鐵鋼自給に關する根本策に關し互に意見の交換を爲し種々協議する處ありたるも何等具體案を見るに至らず、更に會合研究することに決し午後三時散會せり。

●大阪に於ける古鐵商組合

近々十年前迄は古鐵

古釘、古ブリキ其他雜多の古金具、古金屬、小切類の賣買業者、及び是等を原料として各種の修繕加工製造等に從事する極めて小規模な鍛冶工等の雜然たる集團で、僅に其地方の需要を満たすに過ぎない不振の状態にあつたが、此度の大戰に際會し鐵材が空前の高値を現出するや、こゝに長き睡眠の状態から醒めて斯業界は實に稀有の活動を開始し、近々數年間に非常な發展を示し、而して此間同業者等は其奮闘と經驗に依つて、連絡と統一のない個人個人の行爲が如何に微弱にして且不利益であるかを痛感し、直に同志を糾合し相團結して一致の行動に出たのである、此團結の運動の効果は其後着々として實現せられ、さらぬだに上り坂にある斯業界をして更に一層の隆盛を思はしめ、最早今日に於ては貧弱であつた昔日の面影を一掃して其富に於ても其社會的勢力に於ても、他の各事業界に比して毫も遜色なきに至つたのである、然し乍ら當業者等過去の事蹟に鑑み現在に於て既に競賣市場を設置し機關新聞鐵世界を發行し絶えず斯業界の發展に盡して居るが更に新時流に後れまいとして事務所の新築、徒弟學校の設立等を畫策中である。

現所在地 大阪市西區松島町一丁目一四

組合法適用年 明治四十四年

組 合 員 四 百 名

組 長 安部 藤助

副 組 長 玉木 角太郎

●大阪鐵工業組合

大阪の鐵工業は組合設立前迄は難然たる一つの集團であつたが一度組合の創立されて以來其結束を強固にして一意組合を信賴し組合員共同の福祉の爲めに健闘して居る今組合の主なる事業を掲ぐれば

一、價格の協定

一、職工の爭奪禁止

一、組合員間に於ける紛議の仲裁

一、大阪以外の工業地との連絡

一、職工組合の設立修養機關の設置

一、職工賃銀改善の研究

鐵工業者は昔日の窮境を脱し富力の漸く高まつて來てから組合員中動力を使用し新進の機械を運轉するものが次第に増加し、將來の活躍を思はしめてゐる、併し乍ら退いて其事情を検するに一點危惧の念無きを得ない、元來組合員の多數は鐵工業の現況に通じてゐる者は千五百の會員中實に勘かつたが、今日意外の成功を齎したから組合の團結は他に其比を見ない程である、けれど之が指導者たる者は深く時代を達觀し内部の融和を計り更に訓練あり根柢あり權威ある團體たらしむべく最善を盡す可きの要があらう。

現所在地 大阪市南區木津敷津

組合法適用年 大正七年

組合員數 千四百五十人

組長 栗本勇之助

副組合長 有光丑太郎、作山傳吉

●新鋼鐵發見

デーリー、ニユース紙の所報に曰く、シェーフィールド大學教授アーノルド博士は現在の硬度及び特性を遙に凌駕せる堅硬性及び截斷力を有する新鋼鐵を發見せりと。

●低磷銑鐵開始

大倉組の經營に係る廣島縣佐伯郡大竹に於ける低磷銑鐵製造に關しては熔鑛爐二基（日産各二十噸）は昨年及一昨年中各火入を了したるに拘らず本溪湖製鐵所に於ける該製鐵原料の製出遅延したる爲め、普通銑鐵を製造し今日に至りしが本月中旬頃より愈本來の目的たる低磷銑鐵の製造を開始する由なり、尙同組の第二起業地たる南樺太西海岸吐根保は政府の海灣改築を俟つて事業に着手する筈にて目論見は大竹と略同様なりと。

●伊國の鐵自給策

デイリー・クロニクル紙ミラン特派員の所報に曰く、伊太利は鐵鑛の獨立を企圖し奥國の鑛業會社アルビネモンタナ商會を買收したるが、同商會所有のステリア鑛山のみにても年々百萬噸以上の鐵鑛を産出し向後二百年間の採掘に堪ふべく、伊國は今後外國より鐵鑛の供給を仰ぐ必要なしと。

●潛艦鐵材分配

聯合國最高會議は英國ハリツチ海に抑留中なる獨逸降服潛水艦百五十餘隻を破壊處分に附するとを決定せり、但し此内より十隻を戰時中潛水艦を建造せざりし佛國に與ふることとなりたるが、水陸艦艇分配を

佛國と共に極力主張しつゝある伊太利は戰時中七十餘隻の潜水艦分配に對しては何等の要求をもなさざりし由、因に破壊處分後は鐵材として五大國に於て分配する筈なるも其分配率は水上艦艇材料の分配率と同様なるべしと。

●歐洲鐵材騰貴　歐洲鐵材は生産減少の爲め市況益々氣丈となり、十日入電に據れば英國にては各種鐵材を通じて相場一噸に付二磅内外の昂騰を告げ、クリーブランド銑百三十圓、厚板二百六十圓乃至二百八十圓、薄板十三枚物四百三十圓見當を唱へ、生産激減の結果目下クリーブランド銑を除きてはドルマンロングを始め各製造會社が全部賣止を爲し居りて現物拂底なれば市場に於ける相場は單に名義のみに過ぎず、國外輸出の如きは殆ど禁止同様の狀態にあり、瑞典銑は一二月英國積出百八十五圓、本國積出百七十五圓見當を唱へ、又大陸方面にても素材及石炭の不足にて生産極度に減少せる爲、相場は英國同様昂騰せりと。

●英鐵管理方針　英國政府は休戰後鐵及び鐵材の輸出を解禁せるも其後生産不振の事實に鑒み製鐵及び機械工業保護の目的を以て國內に於ける原料需給調節の爲めに管理を復活し、銑鐵一部の輸出を禁止せるが、八日某所入電によれば政府は更に産業保護の目的の下に鐵及び鐵材の管理を全部復活すべく、目下議會に提出中なりと。

●米國屑鐵輸入　米國船舶院の戰時非常船舶部（主として造船管理部）にては戰後標準型の統一及び船舶の粗製

濫造を防遏する目的の下に戰時中急造したる小造船所は成るべく閉鎖するか又は大造船所に合同せしむる方針に出て既に太平洋沿岸シアトルタコマエベレット及ビュースットサウンドの十七個造船所は全部閉鎖する事に決定し、尙漸次國內各造船所の整理に移る由なるが、其結果屑鐵の再使用に堪へ得るものは此際拂下ぐる事となり、貿易商間には早くも拂下中一萬三四千噸の日本内地輸入契約成立したる模様なるが、價格は横濱渡し運賃を加算し百封度七弗にて本年二三月頃迄には内地着の豫定なるが、右は普通の屑鐵よりも優良なるものなれば價格の關係上今後引續き相當取引ある見込なりと。

●米國罷業狀況　市俄古附近鐵工同盟罷工は勞働者側の失敗に歸し、彼等は平常の如く就業することゝなれり、右失敗の主なる原因は勞働者側に罷工資金乏しさ一事に存し資本家側が之に乘じ鐵工場附近にある各種日常必要品店を買收し勞働者に掛賣を中止せしむる等種々の手段を講じ罷工開始の當初より職工組合脱會を條件として賃銀の割増を爲し、更に最近に至り毎日の時間を一時間短縮し而も從前通りの賃銀を與ふる事となしたる結果先づ落着を見たるものなるが如し、尤も是等の手段は結局賃銀を引き上げたることゝなるを以て今回の罷業に伴ふ間接の影響として鐵價の騰貴を見るは自然已むを得ざる勢ひと解し得べし、又石炭坑夫の罷業に關しては其の一般社會に對する影響の痛

切なること鐵以上なるを以て資本家及當局者共に善後策に焦慮しつつあり、鐵道院總裁は十二月十八日以來シカゴ市に來り協議を重ね居れる趣なるが、其協議の要目として傳へらるゝ處に依れば、差當り郊外列車の運轉數を減じ以て石炭節約の第一歩となさんとするにあるものゝ如く、更に必要に應じ一般列車の運轉數を減ずるは勿論大陸橫斷客車の車輛減少並に列車數を減ずる方針なる由なるが、今の處にては石炭の輸出禁止、一般客車運轉の休止及各工場閉鎖等の計畫は立つるの要なきものゝ如く、斯くなれば多少賃銀の引上げにて折合ふに至るべしと一般に觀測されつゝあり。

●製鐵所製品價格變更 八幡製鐵所にては本月八日より製品中丸鋼二百五圓を二百十圓に鋼板二百二十圓を二百五十圓に、何れも價格變更せり、而して一日の生産高は一千噸なりといふ。

●機械類と鐵類 工業の特色とする所は、新規發明の發表と共に、直に之を採用するに在り、一二年前の新式機械も今日舊式に屬すると云ふが如き事珍らしからず、此點は英國製機械が今日尙十年前の型錄に依つて、販賣せられ居ると大に趣きを異にし、精巧にして能率高き機械は、多く米國にて求めらるる有様に在り、而も本邦の機械業は、概して英國機械業の態度を採り、其の製作に何等の新機軸を出さず、工業發展上大なる障礙を來すべしと云へり、尙

昨年春以降相當紡績機械の輸入を見たるも實際に於て殆ど輸入杜絶の昨年に比し左程増加せずと云ふ鐵類在荷は相等潤澤の所へ、最近既に注文品の積遅れと爲り居たるもの、船毎に弗々入荷あり、左なきだに鈍狀の折柄なれば、本國の依然として高きに拘らず、兎角不況にして、最近丸棒八圓角八圓五十錢、平鐵九圓、鐵板九圓、薄板十六圓鐵板九圓薄板十六圓位を唱へ居り一般に先高也。

●米鐵大輸入計畫 神戸の外國商館及大阪の主なる鐵商がシンジケートを作つて米鐵の大量輸入を計畫してをる、鐵塊、錠其他棒鐵、鐵板等(少量の銑鐵を含む)第一期計畫は時價に換算して五、六千萬圓に達すと云はれてをる右のシンジケートには三井、鈴木等大手筋は參加してゐない様であるが相當の確信はあるらしく、代表者は既に米國に渡つてをる、一説には早くも大量の買付を終りて陽春二月頃神戸に一部は到着するであらうとの事は確聞せる事實であるが、之れは極めて少量に過ぎず、大部分の買付は未だ引合成立するに到らず、目下交渉中であると、右の報道が近來市場に傳はつたので一部の鐵商間には大恐慌を來たし善後策考究中であるが、シンジケートの計畫の大體より推定せば成る可く内地相場に影響を及ぼさざるやう弗々と輸入する方針のやうである、何れにするも果して右の大量の引合が成立するに到らば内地の鐵市場其の後の模様を聞くに神戸の米國貿易會社は同様の計畫を爲してゐたが、

昨今ユーエス・コンソリデイト組合等期近物賣止を聲明せる折柄實現するに至らずして止み、別にロヂャース・ブラウン商會の企圖は絶對祕密に附せられてをるがスチール、銑鐵の一部は二、三月頃亞鉛、鉛等の白物と共に神戸沖に到着の筈である、尤も白物は九月頃買付を行つたもので二、三千噸に達すべく今回到着の物が大部分の模様なればスチール銑鐵等は従つて尠少ならしい今後の輸入も本國最近の情勢に顧みれば大量の輸入は到底困難であらう而して市内鐵商間の一部に於けるシンジケート組織の件は右の輸入計畫の如何に拘らず之れ又祕密裡に進んでをると元來鐵商間の此種計畫は昨年末より今春に亘つて一度擡頭した問題であるが當時は資本金四五千萬圓位で多數鐵商が鐵類輸入の會社を組織する計畫であつた然し利害相異の點から一致の困難なる爲めに行惱みとなり、幸渡歐した岸本吉左衛門氏に米國の事情調査を委嘱して今日に及んだ然るに一方ユーエス組合は最近某輸入商に向つてシンジケート組織を慫慂した事實があり、去る七月頃にはコンソリデイトがユーエスの反對側を一括して大輸出を試みんとした計畫を爲し現に重役は目下支那の視察旅行の途にある其他近來の情勢に促されてシンジケート問題は再燃し來つた、尤も當事者の説明に據ると資本金を二千萬圓位とし其他組織の形式米國との交渉等は決定せず單に一部の意見に止まり岸本氏の歸朝を待つて始めて具體的の問題となるであらうと云つてをるが

前回の失敗に鑑みて一部のものは最初少數を以て取り纏めんと焦つてゐるらしい此の計畫に依れば米鐵を組合の手に獨占して年二、三十萬噸の輸入を行はんとの大規模なものであるが、之れに對する紐育三組合の態度は不明であるから従つて丁未會(三井、大倉、高田、湯淺、岩井、芝川、鈴木、増田)に屬する大手筋は該運動を見縊り乍らも形勢觀望の態であると云ふ。

◎鐵鋼相場強硬 軟鋼棒は米國が三月下旬公定相場を撤回せしも依然百封度二弗三十五仙見當を保合ひ九月に入り偶々勞働問題惹起し踵て罷工同盟起るやユーエス社は當分賣約を停止せり爲に市場暗相場となり亂調子を呈したりしも未だ戰時中見たるが如き大波瀾を演ずるに至らず第二流會社に在りては暫時前値段を維持して底強き氣配ながら相場騰らざりしが十一月に入りて愈々拂底を見越し各製造家は一割乃至一割五分の引上を實行するに至れり而して英國及歐洲品は常に有利なるを利用して本國渡にて百九十圓以上を示したり又内地市場は五月以來頓に商機挽回し現物拂底して久しく產地相場の下に在りしもの漸次接近し來り六月よりは稍上鞘となり並時十貫目七圓二十錢に上昇し茲に弗々輸入商談行はれ始め七月に入りて益々好況を加へ八月には八圓二十錢を唱へ九月に入て稍需要減退して相場引戻の氣配を呈せるも時恰も米國同盟罷工の報に接し何れも賣惜みの婆となり閑散ながら底強を保合ひ相

居れり。

●鉄力相場新低落

戰時中亞鉛引平板は英本國より

場七圓八十錢見當を以て約二ヶ月を維持し年末本國高に氣配頓に變化し八圓以上を唱ふるに至れり更に軟鋼板は米國內の生産力頓に増加せるに反し休戰後造船界の不況に基因し纏まりたる注文なく従つて活氣に乏しく同盟罷工起るに際しても遂に上昇を見ず横濱沖着相場八十五七弗を往來し歐洲品は亦常に米國品の上位に在りたり又内地にては曾て戰時中米國禁輸の餘影を蒙り一時市價の二十倍に達せしものなれば低落の程度激しかりしも尙前半期中は本國相場に比し遙に高値に在りしが下半期に入り更に鞘寄せ氣味となり六月頃十貫目十二圓のもの八月には十圓に下落し十月遂に入圓に十二月には實に七圓五十錢に下押し即ち本國相場に相當するを以て茲に漸く平調の相場を呈する事となれりB、W、G十一番以上の薄板は英米共に製造を厭ひて別個の相場を呈するの氣味あり殊に三十番以上に至つては厚板の倍額を要求して尙拂底し英國の如き頓に二十八番は遂に注文を引受けざるに及べり而して内地に於ては品拂底を構へ英國先物一枚一圓二十錢内外なる時一圓七八十錢を唱へ爾後約定荷の到着にて一圓四十錢迄下落せしも本國の昂騰に連れ再び騰貴して年末着荷一圓八十錢近荷一圓六十錢を唱へたりし尙型物類は造船界の不振にて東京方面の商内頗る減少し相場も引立たず米國の如き板と共に注文取付を急ぐの傾向ありて内地商談撻取らざる有様にて越年したり斯くの如き事情なるに依り大體此等商品は春高を期待せられ

の輸入杜絶したる一方内地鍍金業發達して内地需要三萬噸の約三分の二は供給し得る事となりたるを以て久しく輸入商談杜絶せしも八年に入り英米の輸出解禁と共に弗々新規引合の途開け下期に至りて相當の手合ありたる様子なり英國相場は平板六十枚入横濱沖着相場四十五磅より漸進して五十五磅に至り此換算一枚二圓より二圓五十錢見當より手合せありて年末は二圓三十錢を唱へたり而して内地は品拂底の爲め雷に三圓内外に坐し年末多少引緩みを來せしも尙二圓八九十錢を唱へ海外相場より遙に上位にあり鉄力板は英米共に漸騰の步調を辿り八年下期の初めに於て百封度ものの横濱沖着米國物は八弗五十仙を報じ年末頃に至り英國は百封度物年末頃二磅五志見當を唱へたり而して内地は八年下期の初め頃二十圓より季央には品拂底を來し又外國注文品の遲着を氣構へ二十五圓見當迄引上げたりしも安値輸入品の爲に押へられ年末には二十一圓と落込み又百七十封度ものは季初四十圓七八月四十八圓と昂騰し十月には四十一圓に下押し年末三十八九圓見當の見切物現るゝに至れり是蓋し安値約定品の利喰を急げるに基因するものゝ如し更に針金は一般鐵物界の好況に連れ漸次上昇し米國品横濱沖着相場百二十五弗のものと年末百四十弗を唱へたるが开は米國內地に於ける同盟罷工の影響を受けたるものなる可く然れ

ども内地市場は依然として十貫目十二圓内外を往來し差したる變化なく越年したり。

●新春價強調 昨年末に於ける鐵材市況は甚だしく沈靜の状態なりしが新春の初相場は、輸出國の強調、積出し期日遅延及内地在品の不足來等を見越し漸く引締りの氣勢を示しバーの如き確に近く持直しの情勢を呈しつゝあり五日三井物産入電の倫敦相場は相變らず強調にて其相場左の如し

種 目	價格(圓)	積出期(月)
銑鐵クリーブランド	一三八	本年一二月
同 ス イ デ ン	一七二	同
鐵板十六分三吋以上	二七五、三〇	同 二三月
薄板五厘八厘一分物	二三二、四五	同 四五月
同 廿 七 枚 物	四七四、五〇	同 四五六月
鋳力一七〇封度物	四九、九〇	同 六月
同 一 〇 〇 封 度	二六、六〇	同
平 板	六二〇	同
ナ マ コ 板	五八七、五〇	同

●特許 前號報告後鐵鋼に關係あるものを摘録すれば左の如し。

第三四九三四號 鑛石淘汰法の改良
第三五一二號 薄鐵板製造法

第三五一三號

車輛に使用する無限軌道の改良

第三四九三四號

大正八年四月二十二日出願
大正八年九月十二日特許
特許米國ガイ、ガツシュ
權者

鑛石淘汰法の改良

發明の性質及び目的の要領 本發明は鑛粒の流れを粒子の大きさ及び重量の如何に拘らず全く平等なる速力を以て大氣壓力に反抗して床上に放射せしめ大氣壓は各粒子の運動勢力を吸収し粒子を其の大きさ及び重量の相違に従ひ初めの放射點より種々異なりたる距離に於て床上に沈澱せしめ、以て鑛石の異なる成分又は異なる割合又は其の兩方の粒子を分類する方法に係り、其の目的とする所は從來此の種の作業に於ける缺點を除去し、習熟せざる人を冶金家となすことを得せしめ、以て此等の困難を免除するに在り而して勞せずして優等並に劣等の鑛石を取扱ひ、迅速有效に且つ經濟的に其の中の價值を有する部分を鑛山又は塵芥溜の附近に聚集し、僅少の費用を加ふれば之を精鍊し得べからしめ、又は分量減少するを以て精鍊するたに遠き場所にも有利に搬送するを得べからしむ。

特許請求の範圍 一、鑛粒の流れを粒子の大きさ及び重量の如何に拘らず全く平等なる初速力を以て大氣壓力に反抗して床上に放射せしめ、大氣壓力は各粒子の運動勢力を吸収し、粒子を其の大きさ及び重量の相違に従ひ、初めの放射點より種々なる距離の點に於て床上に沈澱せしむる如くせる鑛石の異なる成分又は異なる割合又は其の兩方の粒子を分類する技術の改良。二、粉碎鑛石の粒子を氣流中に浮遊せしめて反抗力ある大氣中に放射し、以て粒子を其の重量及び大きさに従つて確實に床上に分類し之を回收する如くせる鑛石淘汰法の改良。三、粉碎鑛石の流れを壓力にて空氣の流れの中に送給し、鑛石の粒子に全く平等に高速力を附與し、大氣は之に對して抵抗し粒子の勢力を吸収し空氣中の浮遊状態より粒子を放縱し粒子の重量及び大きさの異なるに従ひ、異なる距離に沈澱する如くせる鑛石淘汰法の改良。四、粉碎鑛石の粒子を其の大きさ重量に従つて廣き範圍の差を有する大氣の抵抗作用をなさしむる如き初速力にて反抗力ある大氣中に吹出し、金屬を含有する鑛土及び金屬を含有せざる鑛土とを床上の廣き範圍の分離點に沈澱せしむるの特性を有し、請求範圍第二及び第三項所載の鑛石

淘汰法の改良。五、壓搾空氣及び鑛石の流れを最初其の流の靜的壓力に等しき壓力の大氣中に放出し、夫れより外氣中に放出す其の中間にて空氣及び粉碎鑛石の流れの側面膨脹を阻害し、以て流れの中に浮遊する粒子に流れの中より放縱せらるゝ前に増大せる線速力を附與するの特性を有し、請求範圍第二第三及び第四項所載の鑛石淘汰の改良。六、粉碎鑛石を入れ之に空氣壓力を加ふる容器、壓搾空氣の一部と共に鑛石を放出する爲めの該容器にある弁ある出口、粉碎鑛石及び空氣を容るゝ放射器即ち吹口及該吹口を向けある淘汰床の聯合に依る鑛石粉末機より成る淘汰裝置の改良。七、同軸線上にて反對方向に圓錐狀をなせる吹口を有し、其の細き端は互に相對する二箇の縱方向に離れ居る尖端、粒子を含有する空氣の流れを一定の速力及靜的壓力にて一方の吹口に送給する手段、包封し及び催滑する空氣の流れを兩吹口間の間隙に全く同じ靜的壓力にて送給し、外方の吹口より放出せしむるの手段の聯合より成る既記の二段吹口即ち速力催進吹口即ち放射器。

第三五一二號

大正八年六月十三日出願
大正八年十月十日特許
特許權者 遞信大臣 野田卯太郎

薄鐵板製造法

發明の性質及び目的の要領 本發明は導電性酸化鐵の被膜を有する鐵板を陰極として使用する事の特徵とし、可溶性鐵鹽溶液を電氣分解し直接に鐵板を製造する方法に係り、其目的とする所は極めて容易に陰極より剝離し得る電解鐵板を製出するに在り。

特許請求の範圍 前記の目的を達する爲め本文に詳記せる如く導電性酸化鐵の被膜を有する鐵板を陰極として使用する事の特徵とし可溶性鐵鹽溶液を電氣分解する事より成れる薄鐵板製造法。

第三五一三號

大正六年七月二十一日出願
大正八年十月十日特許
特許權者 東京府 高松梅治

車輛ニ使用スル無限軌道ノ改良

發明の性質及び目的の要領 本發明は一聯の短鈎を連結して鈎帶を構成し、之を車輪の外周に應用し車輪が進行するに従ひて自働的に板道を敷設すべ

くせる無限軌道に於て車輪の外徑と鈎との長さの比を約一〇對二、二乃至三、三に保ち、且右の特種の長さを有する鈎の八箇乃至十二箇を連結し、以て全體を構成すべくせることを特徵とし、從來車輪後方に生じたる鈎帶の垂みを廢止すべくせる改良構造に關し其目的とする所は車輪後方に生ぜる鈎帶の垂みを廢除し以て荷積其他の場合に於ける不便を除去せんとするにあり。

特許請求の範圍 一、本文に詳記せる如く一聯の短鈎を連結して鈎帶を構成し之を車輪の外周に應用し車輪が進行するに従ひて自働的に鈎道を敷設すべくせる無限軌道に於て車輪の外徑と鈎との長さの比を約一〇對二、二乃至三、三に保ち且右の特種の長さを有する鈎の八箇乃至十二箇を連結し、以て全體を構成すべくせることを特徵とし、從來車輪後方に生じたる鈎帶の垂みを廢止すべくせる改良構造。二、本文に詳記し且添付圖面に明示したる如く軌道を車の外輪に取付たる場合及び之を取付たる後其長さを調節すべき裝置を有し右の裝置は多數の調節孔を有する一對の鈎(4)(5)と中介鈎付針(6)とよりなる所の請求範圍第一項記載の無限軌道。